

武州みたけ

第四十六号



旧誘導滑車をヘリコプターで滝本へ搬送する様子

奉納

式年大祭(二万円以上・敬称略)

平成二十七年九月一日

平成二十八年二月三十一日

百万円以上

茅ヶ崎市

有限会社島崎商事

代表取締役 島崎英明

五十万円以上

青海市

黒田忠雄

二十万円以上

武蔵村山市

原山第一講中

十万円以上

青海市

今井堀乃内講中

新座市

野火止聯合講中

江東区

櫻井露葉

木更津市

吉岡生久子

東久留米市

阿部幸二

草加市

伊藤聡哉・和子

坂戸市

吉野勝利

さいたま市

佐藤眞一

練馬区

豊田清

八万円以上

和光市

上引田御嶽講中

五万円以上

所沢市

城山神社

練馬区

御柳瀬企画

練馬区

吉田梅男

練馬区

吉田茂雄

西多摩郡瑞穂町

有限会社金咲通産

大田区

代表取締役 金崎 強

横濱市都筑区

豊亨マツモト

青海市

本道真智子

八王子市

代表取締役 荒井成典

青海市

八木岡照義

八王子市

株式会社コバヤシ工房

中央区

JMS三箇龍仁

横濱市神奈川区

銀座ダックス 巳作和恵

横濱市神奈川区

子安入江講中

横濱市神奈川区

子安入江講中 講元清水幹夫

三万円以上

武蔵村山市

御サンベア 代表取締役 進藤喜一

あきる野市

沖倉広隆

あきる野市

沖倉正夫

あきる野市

沖倉奈津子

あきる野市

小沢正明

あきる野市

森屋安夫

あきる野市

森屋一穂

渋谷区

田中光一

船橋市

梅原茂

海老名市

飯田廣幸・照美

新座市

信州そばの会講中

さいたま市

山田國光

小金井市

中津川雅之

市川市

漆畑直美

浦安市

木下千鶴

船橋市

野々山貴之

渋谷区

特選舞鶴舞動隊日本マシヘルバ協会

青海市

篠塚恭一

青海市

神山苺々花

世田谷区

成井義雄

あきる野市

柿崎裕治

文京区

小峰一良

日野市

古今亭文菊

石坂弥一

中村章

中山博允

青海市

正田 勇

日高市

水村重美

練馬区

矢島健一

練馬区

大草恵子

練馬区

奥村容子

比企郡小川町

原浩一

福生市

秋山美左江

東村山市

小町幸生

青海市

大越正則

西多摩郡瑞穂町

竹嶋久雄

西多摩郡檜原村

土屋國武

墨田区

織戸博史

中央区

中山和典

川越市

大森綾子

杉並区

服部元次

大田区

関口佑子

市川市

野呂田伸悦

台東区

奥井恵子

世田谷区

山田和子

奉納・営繕資金(二万円以上・敬称略)

平成二十七年九月一日

平成二十八年一月三十一日

一万円以上

青海市

瀧 柱郎

日高市

新井竹芸

あきる野市

小島悦子

お詫びと訂正

「武州みたけ」第四十五号、式年大祭ご奉納の記載に、一部誤りがございました。お詫びして訂正致します。

式年大祭奉納(平成二十七年) 二十万円以上

練馬区 向山講

太々神楽奏上

近年太々神楽奏上が少なくなっております。太々神楽はどなたでもご奏上頂けますので、皆様のお申込をお待ち申し上げます。

平成二十七年九月一日

平成二十八年一月三十一日

青海市

カンタンを聴く会

渋谷区

御岳山観光協会

至誠館

石段奉納

平成九年から始めた境内石段整備ですが、崇敬者様の篤い御信心と御寄進を賜り、お陰様であと僅かです。皆様のご厚情に感謝申し上げます。

五十万円

町田市

櫻井 洋

お知らせ

第43回奉納俳句 選者及び入選作品について

お ち お か だ に ち 岡 田 日 郎

昭和七年十一月三日生まれ。
福田蓼汀(りょうてい)の「山火(やまび)」
に投句し、昭和二十六年から編集を担当、
蓼汀没後の平成二年主宰となる。山と自然
を称える山岳俳句を多く詠み、五年「連嶺」
で俳人協会賞。東京出身。学習院大卒。本
名は晃。著作に「山の俳句歳時記」など。

長年俳句選者としてご活躍いただきました金子千侍先生が体調不良により、選者降任のお申し出がありましたので、急遽後任には、読売新聞俳句選者で活躍の岡田日郎先生にお願いすることとなりました。
金子先生には長い間ご尽力戴き、誠に有難うございました。
また今回の入選作品はHPにて発表致します。掲載は都合により次号とさせていただきます。

表 彰

当社では十数年前から『浦安の舞』を神前に奏上しておりますが、舞姫の小学五年生・片柳咲楽さんと久保田美鈴さんが、「伝統・文化の継承活動を継続的に実践した生徒」として東京都教育委員会より表彰されました。
(平成二十八年二月十三日都庁にて)
舞姫が昨年より続けて表彰されました事は大変喜ばしく、子供達の努力と敬神の心が受賞に繋がったのではないのでしょうか。



おめでとうございます

百段奉納

この度隨身門上の階段三段を、青梅市増田高一・正子様、青梅市今井西組御嶽講様、町田市櫻井洋様、JA東京中央会須藤正敏様のご奉納により平成二十七年十一月五日に完成いたしました。
皆様のご厚情に感謝申し上げます。

また神社までの階段には、天邪鬼が三方所彫られています。ぜひご参拝の折には天邪鬼を探してみてください。



第四十四回 奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る。
 - 一、(受付は指定用紙にて投句箱へとする。郵送等直接の受付は致しません)
 - 一、締切り 平成二十九年一月十五日
 - 一、発表 平成二十九年三月中旬
- 四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。
大勢の方の投句をお待ちしております。

御岳山の行事

平成二十八年	
一月	一日 元旦祭 三日 大占祭
二月	三日 節分祭 初午 大口真神社祭
三月	初八 春季大祭(祈年祭)
四月	下旬 産安社祭 二十一日 奉納俳句奉告祭
五月	二十九日 奉納剣道大会・介山祭 七日 日の出祭(宵宮) 八日 日の出祭(神輿渡御) 十五日 男具那社祭
六月	十九日 神楽と雅楽の一般公開 二十五日 一日修行体験講座 三十日 夏越大祓
七月	十六日 レンゲシヨウマまつり (九月十一日) 十六日 薪神楽 十八日 滝行体験講座 二十三日 カンタンを聴く会 三十日 薪神楽
九月	二十四日 修行体験講座(二泊) 二十五日 大口真神社祭 二十九日 流鏝馬祭
十月	上旬 体育の日 山ガール・江戸みたけ参り
十一月	八日 神楽と雅楽の一般公開 秋季大祭(新嘗祭) 二十三日 末社祭
十二月	十一日 みたけ山トレイルラン 二十三日 大祓 三十一日 大祓
六月・十一月	第四日曜日 夜神楽
毎月	八日 月次祭
毎日	日供祭

●● 講中を訪ねて ●●

東村山市 久米川講中

講元 内海 浩



私達の所在地は東京都東村山市久米川町と称し、久米川町は市内に十三町ある中の一町で、当市は東京の多摩地区北東部に位置し、東に清瀬市、南に小平市、西に東大和市に隣接し北側は埼玉県所沢市に接して、東西南北それぞれ五キロ程、人口十五万人余りの市です。古くは畑作を中心とした農村でしたが戦後全国各地から移り住んだ人達が増え、現在は都心に通勤する人々の居住地となりました。

当然のこと、農地も減少し戦前からの住人は市人口に占める割合はごく僅かとなりました。けれども、古くからの伝統と習慣、そして神仏を崇敬する心は今も継承され御嶽神社の神を崇敬する心は講と言う組織で続けられています。

久米川講中は、久米川町内を五つの地区に分け行員数は総勢約百三十名程で各地区に二名程の世話人を選任しています。講の年中行事は、年一回四月十三日を代参日と定め、各地区の当番社十名程が担当御師北島道宣氏のご指導のもとに本殿に参拝し、神符を賜り講員各戸にお届けしております。さらに年末には北島御師様が御来町され講員宅を訪問し、新年の平和と講員の健康・繁栄を祈って新しい神符を付与しています。

又、町の鎮守、熊野神社の境内には小さいながら御嶽神社の分社が鎮座されていて、年末三十一日には周囲の清掃、新しい注連縄を飾り、元旦には熊野神社の元旦式典に併せて新しい年の平和と安全を願って参拝をしています。

講中の組織は時代の変化とともに若干変わってきており、かつては二百名近い講員の時代もありましたが、家庭環境の変化や高齢化で講員が減少したことは残念であり、特に若い人達の神仏への崇敬心が希薄になり、新たに講の仲間入りをする人がいなくなったことは残念であり寂しいかぎりです。

今後とも現有組織を守り続けるとともに、次世代の人達が神々を敬う心を高め、良き日本の心を守り続けたいと願っています。

講 中 名 久米川講中
所 在 地 東京都東村山市
講 員 数 約百三十名



式年大祭 記念事業経過報告

平成二十九年酉年式年大祭に向け、漆塗り替え工事は順調に進捗致しております。今年秋頃には完成の予定です。
御参拝の皆様にはご不便とご迷惑をお掛け致しておりますがご理解を戴き、今後も皆様より賜りましたご厚情を糧にこの記念事業の完成に向け、鋭意努力をして参る所存でございます。
また引き続き記念事業資金のお願いをするところでございます。何卒宜しくご高配賜りますようお願い申し上げます。



現在漆塗り作業は、幣殿・拜殿の室内を行っております。彩色は冬期間中 工房に送り作業が進められています。



日の出祭

数多くある御嶽神社の祭典の中で最も賑やかな祭典が、5月8日に斎行される「日の出祭」だ。御岳平から山頂にある神社まで、御師たちが奏でる雅楽と共に、鎧武者や神輿、そしてかわいい衣装を纏った稚児たちの大行列が続く。私はここ3年間「日の出祭」のようすを撮影しているが、毎年見事な晴天に恵まれている。神さまが歓迎してくれている印のようで、いつも清々しい気持ちでシャッターを切っている。また、前夜の宵宮は、「日の出祭」の華やかさとは違い、厳肅な雰囲気で幻想的だ。この時は、自然と心が引き締まり一枚一枚大切に記録していく。

(写真・文 鶴巻 育子)

日の出祭

5月7日 宵宮 午後8時

5月8日 本祭・行列出発 午前10時

供奉料 三千元・五千元・一万元以上

鎧武者・稚児 供奉料無料
鎧持参可能

※詳しくはお問い合わせ下さい。

傳法

今年の夏、四名の方の傳法が終了しました。傳法とは、当社に御師（神職）として奉仕させて頂く許可を受ける為の伝統行事です。ここで将来の武蔵御嶽神社を担っていく若者達四名をご紹介します。

原島家後継者（十七歳）

原島 瑞葵



傳法を終えて思ったことは、「普段こんなに贅沢をしていたのか」と、実感しました。

傳法中はおかゆ、お味噌汁が基本で肉や魚が食べられず、育ち盛りの自分にはとても辛かったです。一番辛かったのは、朝夕の禊もありますが、自分としては食事が辛かったです。

傳法を終え、改めて自分の周りを見てみると、自分がどれだけ贅沢をしているかがはつきりと解りました。この経験を糧に将来に役立てられれば良いです。ご指導有難うございました。

須崎家後継者（十八歳）

須崎 晃輔



今回、私を含め四名が社家の後継者として伝法を受けました。

全てが初めての事はかりで正直とまどう事はかりでしたが、初日の開講式で金井先生が、「伝法をすることは、御岳山の長男として生まれたからには宿命である。」とおっしゃっていた言葉を胸に、みんなと頑張れた気がします。

火おこしから始まり、食事は毎食おかゆに納豆や豆腐を食べ、早朝と夕方の禊。昼間は作法や祝詞の練習など多くの事を学ばせていただきました。

伝法の最終日には、伝法修了奉告祭を四人で奉仕させていただきます。お世話になった金井先生に練習の成果を見せる事ができた事は本当にうれしく思っています。また、この伝法は御岳山の方々に支えられ行われている事も知り、心からお礼申し上げます。

今後は今回の経験を生かして、神主としてしっかりと勉強をしていきたいと思っております。一週間ありがとうございました。

須崎家後継者（十九歳）

須崎 直成



一週間耐え抜いたというのが一番の感想であります。ある種軟禁のような状態で神社に籠もり修行に臨みました。

祝詞をはじめ神前でのマナー、祭の執り行い方など、様々なことを教わりました。しかし最も厳しく最も記憶に刻まれたのは、朝夕の綾広の滝での滝行であります。早朝の八月とは思えない気温の中で滝を浴び、深々と体が冷え夏にして凍えました。

また共に一週間を過ごす仲間においても、御岳山出身者の中では最年長ということで、後輩達を引っ張り彼らの手本とならねばならないと、その責任を念頭に、真摯に修行に對して向き合えたと思っております。

このように人生で最も「神道」という宗教に触れた一週間でありました。そして自分が神職の家に長男として生を受けたことを痛切に再認識すると共に、自分の将来について真剣に考えさせられる一週間でありました。

北島家後継者（四十四歳）

北島 知生



この度、二〇一五年八月二十二日から二十八日までの一週間、一〇代の男性三人と私、四〇代一人の計四人で伝法を受けました。

神主家に婿入りして八ヶ月、新たな人生のスタートです。修行前は、この一週間無事乗り越えられるのか不安で一杯でした。しかしながら、とにかく乗り越えるしかないという強い気持ちを持って臨みました。

初日にまず行ったのは火熾しでした。高校生の体力のお蔭ですぐに火種が出来たのですが着火までは至らず、結局一時間以上かけてようやく火を熾すことが出来ました。

昼間は毎日大祓詞等を朗読、そして作法の練習、奉告祭に向けての実践的な練習等を行いました。特に難しく感じたのは、進み始める時の初めの一歩の出し方（右足から出すか、左足から出すか）で、頭の中で考えながら必死に練習していました。座ったまま進んだり退いたりする、膝進（しっしん）・膝退（しったい）も非常に難しかったです。

朝は毎日五時半、夕方は三時半に社務所を出発し、滝まで三十分歩いて行き、滝行を行いました。この週は八月にも関わらず気温が急激に下がり、朝の気温は十度代前半という寒さ、そして滝へ行く時間はほぼ毎回雨が降り、道はぬかるみ、慣れない雪駄で歩く中、何度も転びそうになりました。滝行では雨の影響で滝の水量が多く、水流の強い時もあり痛さを耐えていました。このような悪天候の中、一週間無事に滝行を終えられたのも、若い皆さんと一緒にお互いを励まし合いながら一週間を過ごせたお蔭だと思えます。過去には独りで伝法を受けられた方もいらっしゃるようですが、とても大変だっただろうと修行中に何度も思っていました。

最後に金井先生をはじめ滝行等でご指導、ご協力頂きました皆様方、大変感謝しております。有難うございました。また、お祝い、差し入れ等を頂いた皆様方、有難うございました。伝法中の食事は、基本的にはおかゆとお味噌汁、それに差し入れて頂いたお豆腐、茄子、ピーマン、梅干しなどを美味しく頂きました。

皆様方のお蔭で無事伝法を終えることが出来ました。伝法が終わわり、今は祓詞等を日々勉強しております。まだ右も左も分かっておらず、これからも皆様にはご迷惑をお掛けするかと存じますが、武蔵御嶽神社の今後の益々の繁栄の為に一所懸命努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

御嶽神社あれこれ

復活！ 懐かしの我が学び舎



者が多く、この私もその一人。
今回復活した御嶽学校は、分校の跡地に建てられた「ふれあいセンター」で開校され、小さなグラウンド（広場）や体育館もある。三名の先生が本校より派遣され、保護者が交代で先生の送迎をしている。給食も保護者が配達しているが、臨時学級としては私が通っていた頃より設備は整っているかもしれない。

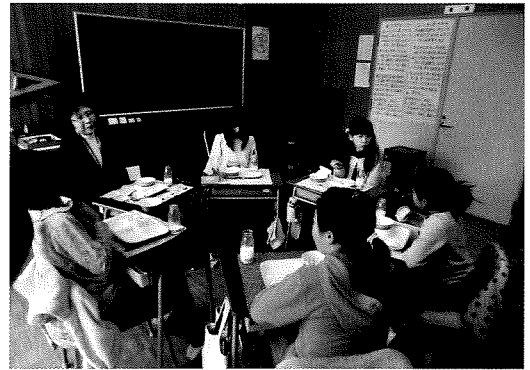
楽しそうな話し声に振り返ると、学校へ向かう子供達の楽しそうな姿に顔がほころぶ。時計は八時十五分、いつもなら一時間以上前に見られる通学風景、始発のケーブルカーに乗るため足早に駆け向うのだ。しかしそのケーブルカーは巻き上げ機更新のため約三カ月間の連休中。学校へ通えない子供達の為に、この期間だけ「御嶽学校」が復活したのだ。そのおかげで子供たちはゆつくりと登校を楽しんでいる。

子供達は一、二、三年生が三名で複式学級一クラス、四年生四名と五年生二名は背中合わせに座り、前後の黒板で授業を受けている。その和気藹々とした授業を眺めていると、なんとも懐かしい。私が通っていた頃は七名の児童に先生一名の複式学級、給食は「給食のお兄さん」がケーブルカーに乗って運んできてくれた。途中転倒して急遽（きゅうきょ）育は雪合戦にそり遊び。先生と集落

遡ること百余年、明治九年に開校し多くの御嶽山の子供たちを育んできた御嶽学校。昭和六十一年に二人の生徒を送り出したのを最後に閉校となってしまった。集落の住人は御嶽学校に通った



戦前と昭和40年頃の分校



散策しては、ご近所でお茶をもらって長居をする、なんて事もあった。授業はあまり思い出せないのだが、楽しかった思い出は心の中に沢山詰まっている。

そんな御嶽学校が臨時開校して数日後、雪の中子供たちが神社へとやってきた。一、三年生の男子を先頭に、嬉しそうに先生と参道を歩いてくる。声をかけると道徳の時間で先生に神社を案内していると嬉しそうに答える。いつもと違う学校生活を目一杯楽しんでるのだ。たった三カ月間の御嶽学校だが、子供たちの心が躍らないはずはない。きっとこの御嶽学校は子供達にかけがえのない思い出となつて心に刻まれることだろう。

修行体験講座

毎年多くの方ににご参加いただき有難うございます。深山から湧き出でる清き水にて、日々罪穢れを祓い清め、新たな自分と向き合えるでしょう。「けがれ」とは「氣枯・希枯・食濁」を表し、生きるために必要な意思や思い、食への力などが弱まっている状態を指します。御嶽大神のご神徳を頂き、明日への第一歩を強く踏み出しましょう。

昨年より一泊二日の講座を二回とし、山駆けと滝行を一日で行う講座が出来ました。是非ご参加下さい。

一日修行体験講座

日 時 六月二十五日（土）

開催人員 三十名まで

費用 一万円（申込金・五千円）

滝行体験講座

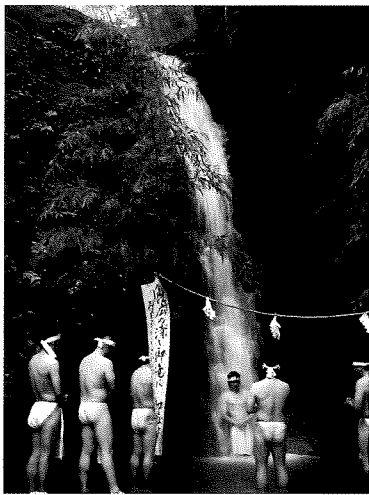
日 時 七月十八日（月）午後一時集合

費用 五千円（申込時全額振込）

修行体験講座

日 時 九月二十四日（土）二十五日（日）

費用 一万五千五百円（申込金・五千五百円）



神社の杜(四十六)

「鬼の善意」東村山市の昔話から(その一)

片柳 茂生

今回は、東村山市に伝わっている御岳山
に關係する昔話を紹介します。

この昔話は池田宗弘氏の書かれた「東村
山の昔話」という絵本に掲載されているもの
で、東村山市むさしの幼稚園理事長の野沢
秀夫様にご紹介いただきました。尚紙面の
都合上原文を少し変えて掲載する事をご了
承下さい。ではそろそろ始めましょうか：。

も怖い物見たさも手伝って皆でこわごわ
谷底まで下り始めたのだと。

近寄って見るつてえと、何てえこった、
こりゃあ鬼じゃねえか。そこにや太鼓を
背中にしよって虎の皮のふんどしをつけた
赤鬼や青鬼が忙しそうに動きまわっていた
のだと。村の者は、岩かげにかくれていた
何をしてんだんべえと、よく見るつちゅ
うと、鬼たちは谷川にジャブジャブ入って

昔、秋津の者がその年の豊作を祈るために
何人かでお宮参りにでかけたんだと。そんな
で、帰り道のこんだ。村の者の一人がふと
遠くの谷のほうを見るつちゅと、何だか
知んねえが、谷底のほうに人影が動いてる
のが見えたのだと。一体、何だんべえと皆で
目を凝らすつちゅと、不思議なことが
あるもんで、この人影は上から下まで真赤
だったたり、真青だったたりして、とても人
間とは思えねえような奇妙な格好をして
いたのだと。あたりはだんだん暗くなつてき
て、村の者は気味悪かつたけれど、それで

いつては、両手にたくさん氷のかたまりを
取つてきてでつけえ俵に一所懸命つめ込ん
でいたのだと。夏でも恐ろしく冷めてえ谷川
の水のこんだ、鬼たちの手足はどれも紫色
に変わつていたけれど、当の鬼たちはそんな
ことは知らん顔で、働き続けていたのだと。
「いつてえ何してんだや」
岩かげの百姓たちは首をひねつて考えた
けれど、どうもさつぱりわかんねえ。そんな
中でも勇気のある者が岩かげからはい出
して、こわごわ鬼に聞いてみただと。

「そんなに、たくさん水を取つて何すんだや」
さすがに声が震えちゃつたぞうだけれど、
それでも鬼のほうじゃあ気楽に答えてくれ
ただと。



イラスト：紺野美織

さてさて鬼達は何で水を俵に詰めている
のでしょうか。そして鬼の近くまで様子を
見に行つたお百姓さん達の運命は・・・。
この続きは次号で。お楽しみに。

「古文書にみる

武州御嶽山の歴史」刊行と販売のお知らせ

武蔵国の國魂の鎮る御嶽山に近世三百余
年、神に奉仕した神主と御師六一軒。今は
三一軒ですが、家々に古文書を伝えます。
この全国にも稀で貴重な文書に対して、
法政大学と青梅市の共同学術研究として
一九九五年(昭和六〇年)「武蔵御嶽山
社及び御師家文書学術調査団」を組織、
二〇一三年(平成二五年)までには一七軒、
四万五千点の文書調査の大事業を終え
ました。

はじめの長期にわたる大学との共同事業
でしたが、青梅市側から古文書の会の市民も
多数参加、調査は市民の学習活動としても
学界から高い評価を得ています。
この成果を刊行中の二〇一三年に、公開
講座「古文書にみる武州御嶽山の歴史」が
七回行われました。御嶽山の家々に伝わる
古文書を史料とした講座で、御嶽山の人々
が祭祀を行い、御社殿、神宝を守り、参詣
人を迎え、共同して暮らし続けた近世から
近代の歴史を明らかにしました。

この講座の内容を一冊にまとめ、読みや
すい文体にしたのが、同じ題名の本です。
第一章は、調査事業の中心だった、多摩
近世史研究の恩人、法政大学名誉教授の
村上直先生の「近世初期の御嶽山」で、歴史
学の視点を、近世三〇〇年の平和と御嶽山の
関係で述べて感動的です。先生は講座の後
急逝、この文章が絶筆となりました。

続いて「祭礼と神事」「御師と神社」「神宝
と将軍上覧」「社殿修復と資金調査」「参詣と
観光」「講中と信仰」。新しい視点による、
古文書に基づく御嶽の歴史的姿が描きだ
され、楽しくわかりやすい一冊です。
講中の皆さんにも是非一読頂きたく



価格：2,400円

社務所にて販売致します。
詳しくはお問い合わせ下さい。

表紙写真 御岳登山鉄道(株)

「旧誘導滑車をヘリコプターで
滝本へ運搬する様子」
今回の更新工事で巻上制御方式をインバ
ー方式に変更し、四月一日の運転再開に向
け準備を進めております。

今号より四回に渡り、御岳山に
まつわる昔話を紹介いたします。
お楽しみに。東村山市久米川講内海
様、鶴巻育子様、齋藤慎一先生、
片柳茂生様、北島知生様、須崎直成
様、須崎晃輔様、原島瑞葵様玉稿
を有難うございました。

平成二十八年 三月二十五日発行
年二回発行・非売品

編集 武蔵御嶽神社
TEL 0424 781 8500
FAX 0424 781 9741

http://www.musashitakejinja.jp/
印刷 (株)成和印刷